

— 卷頭言 —

学習指導要領の改訂について

県教育庁教育振興部指導課 指導主事 風戸 正

平成 18 年 12 月の教育基本法の改正を皮切りに、順次教育に関する法律が改正され、これらを踏まえ長い年月による審議の結果、高等学校及び特別支援学校の新学習指導要領が平成 21 年 3 月 9 日に告示されました。これで全ての学校種における新学習指導要領が告示されたことになります。これらの学習指導要領改訂の基本的な考え方として、3 つ挙げられています。

一つ目は、教育基本法や学校教育法等の改正で明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成すること。

二つ目は、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視していること。

三つ目は、道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体育成すること。

これらの「生きる力」としての学力及び学習指導についての考え方が、学校教育法第 30 条第 2 項に盛り込まれています。すなわち、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」と規定されたことは重要なことでもあります。また、取り組む際に配慮すべきこととして、生徒の「言語活動の充実」を図ることが謳われ、総則の中でも繰り返し示されています。この新学習指導要領の趣旨を大いに反映させ、これからの高等学校教育をみんなの手で支え、進めて行くことが今後の課題だと思います。

いつの時代でも学校教育の基礎となり、中心となるのが言うまでもなく「授業」です。教師一人ひとりの「授業力」が、生徒の活動を促し、クラス全体の活動へと発展することにより、生徒の理解をより一層深めることになると考えます。特に、今次の改訂により数学においては、数学 I や数学 A での「課題学習」、理数での「課題研究」といった数学的活動を一層重視した学習が求められています。この活動は、数学的な思考力（見通しを立てる・予想する力・推論する力など）や表現力（まとめる力・説明する力・評価する力など）を高めることを目指しています。これらに取り組むときこそ、数学の面白さや数学の有用性に気づかせ、自己達成感などを味わわせる絶好の機会であり、生徒たちは数学を学ぶ意義を見いだせるのではないのでしょうか。現在、学校評価等の導入により、授業改善に向けて生徒からの授業に対する評価を取り入れている学校が徐々に増えてきています。まさしく「授業の質」が問われる時代であり、生徒の視点にたち授業を見直し、生徒が主役となるような指導の工夫改善が求められています。

今後とも、魅力ある授業を展開し、千葉県の数学教育のますますの発展に御尽力をお願いします。また、この数学会誌『 $\alpha - \omega$ 』が、先生方の研修の一助として、さらに充実し、ますます活用されることを祈念いたしております。

改訂された数学科の目標

数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。